

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園グループホーム
訪問調査日	平成19年6月29日
評価確定日	平成19年7月30日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4679500092
法人名	社会福祉法人 ともお会
事業所名	さくら園グループホーム
所在地	大島郡知名町知名1952-1 (電話) 0997-93-5151
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成19年6月29日

【情報提供票より】(平成19年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 11年10月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	人
常勤換算	13 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(5月31日現在)

利用者人数	17 名	男性	0 名	女性	17 名	
要介護1	4 名	要介護2	7 名			
要介護3	5 名	要介護4	1 名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	82.8 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 金連会 本部医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な小高い丘の上に、同一法人の特別養護老人ホームやデイサービス、給食センターなど、総合的な福祉サービス拠点の一角に建てられたホームである。これまで培われて来た総合的な介護・福祉の経験や知識が、書類・記録類の整備や職員の教育研修体制、さらにその成果としての日々のケアに活かされており、関連医療機関の支援体制と併せて、入居者やご家族にとって大きな安心となっている。法人の三大大行事(夏祭り、敬老会、運動会)は、地域にとっても一大イベントであり、入居者と住民との貴重な交流の場となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回は、特に指摘された改善事項は無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全体で取り組み、改善項目も見出されており、日常業務の再確認の機会となっている。質の向上へ向けた改善意識の共有化が図られている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年9月より開催されており、ホームの現況や外部評価について報告がなされ、質問や意見交換が行われている。参加している行政担当者や民生委員との情報共有の場となっており、詳細な議事録が作成されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族の面会時及び家族会の際に、意見や不満、苦情を表出していただくよう声かけしている。ご意見箱も設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の三大大行事には、町の無線放送で住民に呼びかけてもらい大勢の参加が見られる。また、地域の敬老会や諸行事にも積極的に参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の皆さんが充実した生活を送れるように、地域社会との関わりが不可欠であるとの認識で、基本理念に地域との連携が盛り込まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度事業計画に記載し、研修会での朗読やホーム内での掲示により共有しており、日常の業務の中で実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の三大行事(夏祭り、敬老会、運動会)には、町の無線放送で住民に呼びかけてもらい大勢の参加が見られる。また、地域の敬老会や諸行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体で取り組み、改善項目も見出されており、日常業務の再確認の機会となっている。質の向上へ向けた改善意識の共有化が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年9月より開催されており、ホームの現況や外部評価について報告がなされ、質問や意見交換が行われている。詳細な議事録が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場とは近距離にあり、介護認定手続きを始め、頻繁に行き来しており、情報の共有、運営についての連携を通してサービスの質の向上について取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時及び電話にて、入居者の暮らしぶりや健康状態について報告している。金銭管理については、個別に金銭出納帳を作成している。職員の異動については、面会時や家族会での紹介のほか、さくら園便りでもお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会の際、意見や不満、苦情を表出していたくよう声かけしている。ご意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に止めるよう努力している。代わる場合は、引継ぎ期間を設け、馴染みの関係ができてから本格的なケアにあたるように配慮しており、ダメージを防ぐように努めている。併せて、ケア記録の充実により、情報が正確に引き継げるように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修に始まり、毎月のケア会議において研鑽を重ねている。グループホーム協議会や町社会福祉協議会主催の研修会には基本的に全職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島内5事業所が協力して、相互訪問体験活動を実施しており、職員の交流により、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅や入院・入所先の事前訪問を重ねて、馴染みの関係を築いている。ご家族と相談しながら、日中の暮らしや食事体験を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	島言葉で会話するようにしており、喜怒哀楽を共有できるように努めている。仕事を終えて帰る職員に、気をつけて帰れと声をかけてくださる入居者も居られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族と十分に話し合うことにより意向の把握に努めているが、困難な場合もあり、入居者ごとのメモ帳などにより、なるべく本人の意向に近づけるように取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、担当を含む全職員との話し合いにより、介護計画を作成しており、担当職員は、常に入居者の動静を把握して意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には3ヶ月ごとに、必要な場合は随時、専門職の意見を取り入れてご家族に相談の上、現状に合わせた見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族との旅行や食事の外泊には柔軟に対応している。医療面では、入院が必要と見られる場合でも、医師やご家族との話し合いで、治療を受けながらホームで暮らし続けられるような支援もなされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により、月2回の訪問診療が行われ、健康管理がなされており、皮膚科、眼科などの専門医には、送迎による受診支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取り等について、事前意向確認書を取り交わしており、重度化した場合には常にご家族の意見を聞いて対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねないような対応や言葉かけを心がけている。個人情報保護に関する基本方針及び利用目的に関して、ホーム内に掲示してある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはあるが、一人ひとりの意向を確認しながら、それぞれのペースを大切に希望に沿った支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲を高め、楽しく食事できるような声かけを行い、準備、片づけも一緒に行っている。お膳拭きを得意とされる方も居られ、和気藹々の中、島歌がBGMとして流れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	畑仕事やレクリエーションの後、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、夜間や午前中の中の入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	島料理や島歌、米の研ぎ方やお膳拭きなど、日常生活の知恵を教えていただいたり、役割を見つけて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人内の特養やデイサービスに出かけたり、島内の名所や思い出の場所、お墓参りに出かけており、なるべく戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠されておらず、自由な出入りができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	まずは火を出さないように、日頃より確認して話し合っている。その上で、入居者も参加する年2回の消防訓練を行い、夜間想定訓練も実施している。職員は、さらに併設の特養における訓練にも参加している。地域住民には、協力について声かけしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア記録に、一人ひとりの水分、食事の摂取状況が記録されており、排泄との関連も考慮して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く広々としたホールは、ソファや長椅子が設置しており、季節感や生活感も味わえる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族との話し合いで、馴染みのある生活用品や寝具が持ち込まれており、安心して居心地の良い部屋となっている。各居室にトイレが設置してあることから、快適性への配慮も伺える。		